考古学財団
公益財団法人かながわ考古学財団情報誌
発掘帖（はっくつちょう）
No.36
2021（令和3）年第2号

調査区全景

足柄上郡山北町 河村新城跡（かわむらしんじょうあと）

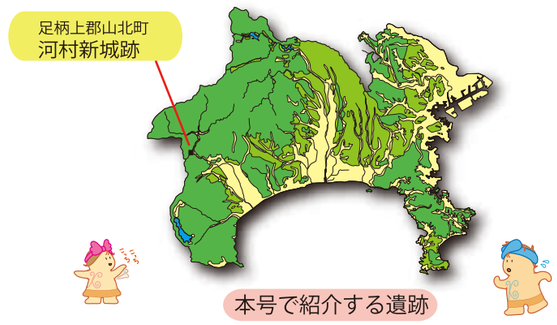
相模・甲斐・駿河の国境にある山城

障子堀

戦国時代の山城を本格的に調査！

河村新城跡は足柄上郡山北町に所在する中世の山城です。文献調査や現地調査から後北条氏に関係する城であることは分かっていましたが、本格的な調査はこれまで行われませんでした。2018年12月から2021年3月まで高速道路建設に伴う発掘調査を実施した結果、多数の遺構や遺物が発見されました。山頂部を中心に斜面を削って平らに仕上げた曲輪群は木橋や土橋で接続し、尾根筋や特に南側斜面からの攻撃を想定した守備体系が想定されます。曲輪の周囲には障子堀を設けている箇所もあり、馬出の形態とあわせ北条氏の築城技術を随所に感じる造りとなっています。

次ページの特集に続きます



発掘帖ではこれまで一度も紹介されていなかった河村新城！今回は２年間におよぶ調査成果をもとに「お城の一生」というテーマで、築城から山城での生活、廃城とその後について辿ってみたいと思います。魅力あふれる城郭調査の成果をご覧ください。

※調査の内容は発掘時点の成果であり、調査の進展及び出土品整理作業において、名称や評価を変更する場合があります。

災害

災害によって破損したお城は城兵や近隣の民衆が動員されて補修していたようです。新城においても、地震などによる崩落の跡が見つかりました。この崩落により、C2 門も崩れたと考えられます。その後、新たに盛土でパックされ、すぐ横に石列遺構が作られました。

地すべり痕跡（C1 盛土）

復旧の跡と見られる遺構

Ⅲ 廃城とその後

新城は近世に入り、周辺村落の農地として利用されていたことが、文献や発見された遺構から分かっています。興味深いのは、堀がある程度まで自然に埋没した後、人為的に埋め立てられたり、礫が投げ込まれたりした跡が見つかったことです。これらは新城を農地として転用した過程を示しているのかもしれません。

堀の覆土から出土した礫

近世のハタケ跡

行事案内

三都県連携事業（公開セミナー）

内容：古墳時代後期～終末期にかけての様相を探る
日時：2022（令和 4）年 1 月 22 日（土）10:00 ～ 16：30（受付 9：30）
会場：川崎市宮前市民館 川崎市宮前区宮前平 2-20-4　　参加：無料　事前申込制（定員 100 名）

◎財団の行事案内の詳細はホームページ・Facebook・Twitter をみてね！

お問い合わせ
（公財）かながわ考古学財団
〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-1
E-mail：fukyu@kaf.or.jp
TEL ：045-252-8689　FAX：045-261-8162

発掘帖バックナンバーはホームページからダウンロードできます。

考古学財団発掘帖
No.36　2021（令和3）年第2号
令和3年 11 月 1 日発行

編集・発行：（公財）かながわ考古学財団
〒232－0033 横浜市南区中村町 3－191－1
TEL：045－252－8689　FAX：045－261－8162
ホームページ：https://www.kaf.or.jp
Facebook：https://www.facebook.com/kanagawakoukogakuzaidan/
Twitter：https://twitter.com/kouko_kanagawa